

一般社団法人
aichikara



平成 30 年度

年次報告書





◆ 2018 年度の aichikara

日頃より、当法人の活動にご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

東日本大震災から 8 年が経過し、東北の被災地では復興公営住宅への入居等が進むことに伴い、人と人との支え合いの中心となってきた仮設住宅が役目を終えつつあります。他にも、避難指示が徐々に解除されるなど変化が見られますが、被災された方々が過ごしてきた月日を思うと、いかに長い道のりであるかを考えさせられます。

被災地に足を運ぶ度に、堤防や道路などの整備が着々と進められており、目に見える部分での復興は加速しつつあると感じます。その一方で、震災の生々しい爪痕が景色の中から消えていくことで『忘れてはならないこと』まで薄れていってしまわないだろうかと複雑な心境に至ります。

2018 年、スタディーツアーで宮城県・福島県を訪問した学生達は、震災当時小学校の高学年でした。彼、彼女等は、語り部の方々のお話に出てくる子ども達が自分と同世代だったことに心を痛め、涙していました。

私達は、こうして東日本大震災を同じ時代の出来事と捉えられる今の学生達に、東日本大震災を『他人事にしない』ための機会を届けられるよう、微力ではありますが引き続きスタディーツアーに取り組んでいきたいと思えます。

毎年加子母で開催している子どもリフレッシュキャンプは、皆様のご支援のお陰で第 14 回目を無事に終えることができました。

2018 年度は福島の子ども達に加え、平成 30 年 7 月 豪雨（以下、西日本豪雨）に見舞われた岡山県倉敷市真備町地区の子ども達を受け入れることとしました。さらには、そのつながりから現地へ出向き「まびっこリフレッシュキャンプ」にも取り組むことも出来ました。

これからも私達は、子ども達が、のびのびと健やかに過ごせる環境づくりに取り組んで参ります。

今後とも、当法人へ変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

一般社団法人 aichikara
代表理事 石原杏莉

キッズ チャレンジ サポート

子どもの可能性を引き出し、
たくましく生きていく
チカラを育みます

ユース チャレンジ サポート

青少年の挑戦をサポートし、
社会のリーダーとなり得る
チカラを育成します

aichikara 4つの事業

人と地域を 守る活動

地域で活躍する個人や
団体との協働を通じて
地域社会に貢献します

教育機関 との連携

教育機関と連携し、
主体性や社会性に
重点を置いた
プログラムを提供します



◆ INDEX

- | | | | | | |
|---|------------------|---|--------------|----|-----------|
| 1 | 2018年度のaichikara | 5 | ユースチャレンジサポート | 11 | 活動を支えるチカラ |
| 2 | 4つの事業 | 7 | 人と地域を守る活動 | 13 | 収支報告 |
| 3 | キッズチャレンジサポート | 9 | 教育機関との連携 | 14 | 団体概要 |



キッズチャレンジサポート



ぐるぐるマーケットによる支援

開催日時：2018年8月1日(水)～8月30日(木)
開催場所：喫茶ぱんとまいむ(名古屋市東区)

ものづくりをされている作家さんのご厚意で持ち寄っていただいたアクセサリや雑貨、ポストカードなどの作品を販売していただきました。売上は、子どもリフレッシュキャンプ2018の開催資金としてご寄付いただきました。ご協力いただいた作家のみなさん、ありがとうございました。



子どもリフレッシュキャンプ2018

開催日時：2018年8月4日(土)～8月14日(火)
開催場所：岐阜県中津川市加子母・愛知県名古屋市
参加者数：30人(福島県21人・岡山県3人・東海3県6人)

2018年の夏は猛暑が続きましたが、加子母の大自然の中でたくさん遊び、ご飯をお腹いっぱい食べ、暑さに負けず元気に過ごした10日間でした。

2018年は西日本豪雨にて被災した岡山県倉敷市真備町地区の子ども達もキャンプに参加し、生活を共にしました。福島県・岡山県・東海圏と様々な地域から集まった子ども達でしたが、すぐに打ち解けあい、楽しそうに過ごしていました。キャンプでは、自然体験活動や家族がいない場所での集団生活など、日頃できない経験をすることができました。



AED講習会
2018年6月3日・7月8日



福島を離れた避難生活のお話
2018年7月25日

キャンプ事前研修

子ども達が安心して、楽しくキャンプに参加できるように、スタッフ向けの研修を毎年実施しています。応急処置の方法や被災地の現状などについて学びました。



ログハウス合宿
2018年7月14～15日



カメラ研修会
2018年7月14日～15日



キャンプ隊長を経験しての成長

深谷 汐音
至学館大学
健康科学部健康スポーツ科学科

2018年度のキャンプでは、全体をまとめるキャンプ隊のリーダーを担いました。初めての環境でのキャンプは、異常な猛暑が続くなど、様々なハプニングが起こりました。そうした中、スタッフを引っ張っていくことの難しさを改めて実感しました。

また、子ども達は学年が違って、協力しながら毎日を過ごすことができたと思います。上の学年の子が下の学年の子を積極的に手伝ったり、下の学年の子が上の学年の子を見て真似を試みたりと、一人ひとりが成長していく姿が見られました。

子ども達はキャンプ中、薪割りや火起こしを経験することができました。さらには、野外でのピザ作りやシャワークライミング、恒例のトマト収穫など、日頃なかなかできない体験を通して、子ども達の満面の笑顔に出会えました！

こんな子ども達の笑顔にまた出会えるように、2019年度もスタッフ一丸となって全力で頑張っていきたいです！



ユースチャレンジサポート

スタッフ合宿 in 加子母

1回目：2018年12月15日(土)～12月16日(日)

aichikara の運営を担うコアスタッフで集まったこの合宿では、様々なワークショップを通じて、チームワークやリーダーシップについて考えました。

また、団体立ちあげからこれまでの活動を各スタッフの体験談によりみんなで振り返るとともに、レゴブロックを使って未来の aichikara の姿を話し合いました。



2回目：2018年12月23日(土)～12月24日(日)

2018年度に aichikara の活動に参加した学生で集まり、ワークショップを通じて相互理解を深め、日頃のコミュニケーションについても考える機会としました。合宿の最後には、一人ひとりが活動に向けた抱負を漢字1字で発表しました。



初めての福島と スタディーツアーでの学び

加藤 美己

至学館大学
健康科学部栄養科学科

今回のスタディーツアーに参加して、初めて福島へ行きました。様々な語り部さんの話を聞かせてもらいましたが、様々な立場の方々がいろいろな想いでいたということを知ることができました。

大熊町ふるさと応援隊の方からは、ご自身も避難を強いられながら、避難所でのボランティア活動に取り組んだ話を伺いました。活動をする中で、周囲の協力を得られたり、役に立っているという実感を持てたりしたことが「生きるんだ」という思いを強く持つことにつながったのだと知りました。また、日頃からの地域でのつながりが、つらい状況でも協力し合えるきっかけになることを教えていただきました。

また、浪江町の花弁農家の方の話では、当たり前風景を失って初めてその美しさに気付かされるという話が印象的でした。私は、自分が住んでいるところを星が綺麗とか落ち着くから好きだと思ったことはありますが、そんなにも強く美しいと思ったことがありません。普段から自分が住んでいるところに目を向け、良いところを大切にしていきたいです。



スタディーツアー in 福島

開催日時：2018年11月23日(金)～11月24日(土)

参加者数：17人

【1日目】

コミュタン福島視察→震災体験講話(渡部さん(三春町)・大熊町ふるさと応援隊・富岡町 3.11 を語る会)→福島大学災害ボランティアセンターとの交流

【2日目】

浪江町視察(請戸地区・花卉農家等)→帰還困難区域の視察(双葉町・大熊町・富岡町)→福島給食センター視察



スタッフ合宿を通しての 一人ひとりの学びと成長

志治 友規

一般社団法人 aichikara
事務局長

この合宿では、「チームワーク」や「リーダーシップ」をキーワードとし、スタッフ一人ひとりが「自分はチームの中でどのような役割を取れるか、リーダーとは何か」を自身に問うことをねらいとしました。

日頃の活動では、目の前の目標に向けてどうしても業務的なやり取りが増えてしまいます。そうした中でも、最低限のやり取りに終始するのではなく、「互いの力を引き出し合い、よりよいチームとなっていく」ためにできることを共に考えたいと思ったためです。

合宿中は課題達成型のグループワークを通じ、それぞれが持ち味を発揮し、盛んに意見交換や協力をすることができました。さらに、課題に取り組む中でのコミュニケーションの過程をじっくりと振り返り、それを言葉にしていくことで、自他の強みに気づかされたり、改善したい点を見つけることができました。

このような実践型の合宿を通して、一人ひとりがそこから得た学びを自分なりの「目的意識」や「こだわり」とし、日頃の活動で力を発揮してほしいと思っています。

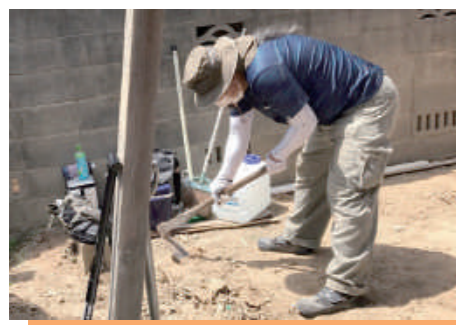
人と地域を守る活動

倉敷市真備町地区での災害復興支援

実施日時：2018年8月18日(土)～19日(日)
2018年12月8日(土)～9日(日)
2019年3月22日(金)

2018年7月に発生した西日本豪雨を受け、現地の被災状況を視察するために8月にスタッフ5名を岡山県倉敷市真備町地区へ派遣しました。そして、夏の子どもリフレッシュキャンプに参加した子ども達の保護者の方々や現地のボランティアセンターの職員の方に被災状況のお話を伺いました。その後も8月・12月・3月に現地で災害復興支援活動を行い、床下の泥の掻き出しや庭の瓦礫の片付け、倉庫の瓦礫撤去、家具の運び出し、清掃などの活動を行いました。

※まびっこリフレッシュキャンプの詳細はP.10に記載しております。



宗春おもち祭り
2018年4月7～8日 / 2019年3月30～31日



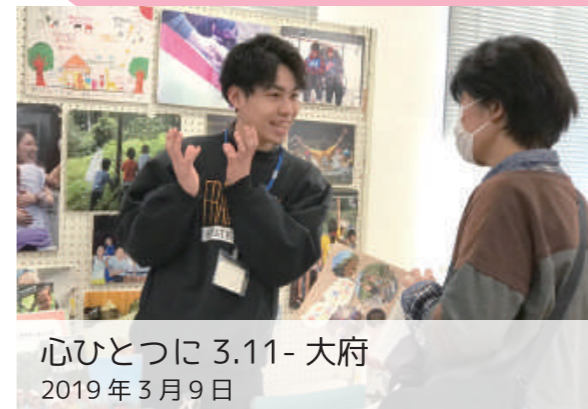
ユニファイドトーチリレー
2018年4月22日



味の蔵たけとよこどもフェスタ
2018年4月28日



至学館大学 大学祭
2018年10月20～21日



心ひとつに3.11-大府
2019年3月9日



3.11 東日本大震災犠牲者追悼式
あいち・なごや 2019年3月11日

岐阜県中津川市加子母でのつながり

子どもリフレッシュキャンプの開催拠点になっている岐阜県中津川市加子母にて、「かしもむらづくり協議会」「加子母教育協議会」が主催する地域会議に参加・参画しました。また、地域の方々が企画・運営する「加子母の大学」「加子母歌舞伎公演」「図書まつり」などのイベントに、学生の参加を促し、コーディネートを行いました。



まびっこリフレッシュキャンプ

実施日時：2018年9月22日(土)～23日(日)
2018年10月27日(土)～28日(日)
2018年11月17日(土)～18日(日)
2019年1月19日(土)～20日(日)

「豪雨被害によって生活が一変した。この環境では小さな子ども達にさらにストレスや疲労が増えてしまうのではないかが心配で…」

2018年8月の視察の際にこのような話を伺いました。子ども達が全力で遊べる環境作りや保護者の休息の機会が必要とされていることがわかり、まびっこリフレッシュキャンプを実施しました。



本気で子どもと向き合えた
まびっこリフレッシュキャンプ

高橋 和也

至学館大学
短期大学部体育学部

まびっこリフレッシュキャンプへの参加を通じて学んだことは、一緒に遊んでいる子ども達に対して、楽しませる側と楽しむ側に分かれるのではなく、一緒に楽しむという考え方やスタンスが大事だということです。それがないと、スタッフとの距離が生じてしまうだけでなく、子ども達の中にも壁ができてしまうということを感じました。

私は、自由時間にみんなで遊んでいる時、一輪車や竹馬に乗って子どもよりむしろはしゃいだと思いますし、しっぽ取りゲームなども本気で楽しみました。子どもを楽しませるというスタンスではなく、自分も楽しむことで子ども達も楽しみ、結果的に一緒に楽しむことができたのだと思います。

振り返ってみると、人生でこんなにも子どもについて本気で考えたのは初めてです。子ども達に向き合えた時間は、これから教育などに関わりたい自分にとって、とても大きな成長の糧になりました。



大学と連携した各種取り組み

中津川市加子母にて国有林ツアー・農業体験等のフィールドワークを行いました。また、至学館大学にてオーストラリアのカウラ地区と日本との関わりを知る映画鑑賞会や、様々なワークショップを行いました。



教育機関との連携

スタディーツアー in 宮城

開催日時：2018年9月15日(土)～9月16日(日)
参加者数：16人

【1日目】

女川町視察(七十七銀行女川支店碑・女川地域医療センター・旧女川交番)→石巻市視察(旧大川小学校・南浜つなぐ館・日和山・つなぐ館・石巻ニューゼ等)

【2日目】

南三陸町視察(さんさん商店街・佐藤信一常設写真展示館・入谷打囃子)→南三陸牡蠣クラブでの環境整備活動→産業復興講話(阿部忠義さん)



意思の強さが復興の
原動力になると学んだ2日間

山本 有人

至学館大学
短期大学部体育学部

今まで、テレビでは被災地の復興の様子を目にすることがよくありましたが、実際に自分の目で見た街はまだ更地が多く、津波の爪痕も見受けられました。石巻市の大川小学校を訪れた時には、事前に話を聞いていたものの、実物を目の当たりにした瞬間に全身がゾクッとしました。破壊された窓ガラスや、むき出しになった鉄骨などは生々しく、津波の恐ろしさを物語っていました。

今回実際に被災された方のお話を伺い、震災当時から復興に至るまで、不安を抱える方々を支えたのは、一人ひとりの意思をもった行動や思いやりの心だと強く思いました。

石巻日日新聞の方々の情報提供や医療関係者の必死の対応、そして復興の力になりたいと協力をしたボランティアの方々、それぞれの強い意志や使命感が震災当時から現在に至る原動力になっていたのだと感じました。

2日目には、南三陸町と一緒にいったメンバーで看板を作りました。将来、僕は家族や友達をこの地へ連れていき、今回の参加メンバーのみんなで作った看板を見せながら、スタディーツアーで学んだことを伝えていきたいです。

活動を支えるチカラ

aichikara の活動は、ボランティアスタッフをはじめ、数多くの方々のご協力とご支援によって支えられています。

街頭募金

被災地の現状や、キャンプの様子等を多くの方々に知っていただきたいの思いから、平日の夕方や週末に名古屋市内を中心に募金活動を行いました。

また、2018 年度は西日本豪雨で被災した倉敷市真備町地区の支援の呼びかけも行いました。

【合計実施回数】14 回 【合計金額】598,629 円

キャンプへのご支援

子どもリフレッシュキャンプ 2018 では、下記のご支援をいただきました。

【合計寄付金額】1,612,078 円

【ボランティア数】78 人

【ご提供いただいた食材】

米・中華麺・きゅうり・なす・
トマト・名古屋コーチン肉団子・
国産鶏もも肉・味噌・飲料水など

パンダふわふわ

2017 年度に引き続き、パンダ型エア遊具を使用してのイベント運営を合同会社ジェイジェイホールディングスから受託し、売り上げをご寄付いただきました。

【合計実施回数】5 回

【合計金額】379,500 円

みなさま
ありがとう
ございました!

会員制度

aichikara の会員には、正会員・賛助会員(個人)・賛助会員(法人)の3種類があります。

【正会員】31 名

【賛助会員】2 名 ※2019 年 3 月 31 日現在

広報

ご支援いただいた方々への報告や、より多くの方々に aichikara を知っていただくことを目的に、活動の様子や被災地の現状などの、様々な情報を広く発信しています。



報告書



ホームページ

<https://www.step-aichikara.com>



ブログ

<https://ameblo.jp/i-aichikara>



フェイスブック
一般社団法人 aichikara



ツイッター
@aichikara2011



インスタグラム
aichikara.gia

aichikara

検索

募金箱

東海地区の様々な企業や店舗のご協力をいただき、募金箱を設置しています。

【合計設置数】90 店舗 【合計金額】138,599 円

ボランティアベンダー

自動販売機で飲料水を 1 本購入すると、aichikara に 3 円が寄付されます。aichikara の事務所をお貸しいただいている大家さんにも、社会貢献型自動販売機を設置いただいています。

【設置台数】2 台 【合計金額】53,652 円

収支報告

活動計算書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

一般の部

(単位：円)

科 目	2018年度決算額(a)	2018年度予算額(b)	比較増減(a-b)
I 経常収益			
1. 受取会費	2,296,196	2,316,000	△ 19,804
正会費収入	2,200,196	2,220,000	△ 19,804
賛助会員収入	96,000	96,000	0
2. 受取寄付金	1,142,047	1,239,600	△ 97,553
3. 受取委託金	4,800,000	4,800,000	0
4. 事業収益	5,345,518	7,246,000	△ 1,900,482
5. その他収益	38,999	100,200	△ 61,201
経常収益計	13,622,760	15,701,800	△ 2,079,040
II 経常費用			
1. 事業費	5,149,593	8,361,456	△ 3,211,863
キッズチャレンジ事業費	3,657,176	3,325,000	332,176
ユースチャレンジ事業費	812,469	915,600	△ 103,131
人と地域を守る事業費	172,285	490,660	△ 318,375
教育機関との連携事業費	254,165	1,235,240	△ 981,075
加子母ログハウス事業費	253,498	2,394,956	△ 2,141,458
2. 管理費	11,479,037	10,551,908	927,129
人件費	7,530,101	7,383,908	146,193
その他経費	3,948,936	3,168,000	780,936
経常費用計	16,628,630	18,913,364	△ 2,284,734
収支差額	△ 3,005,870	△ 3,211,564	
法人税、住民税及び事業税	68,500	68,500	0
当期正味財産増減額	△ 3,074,370	△ 3,280,064	205,694
前期繰越正味財産額	15,034,750	15,334,750	△ 300,000
次期繰越正味財産額	11,960,380	12,054,686	△ 94,306

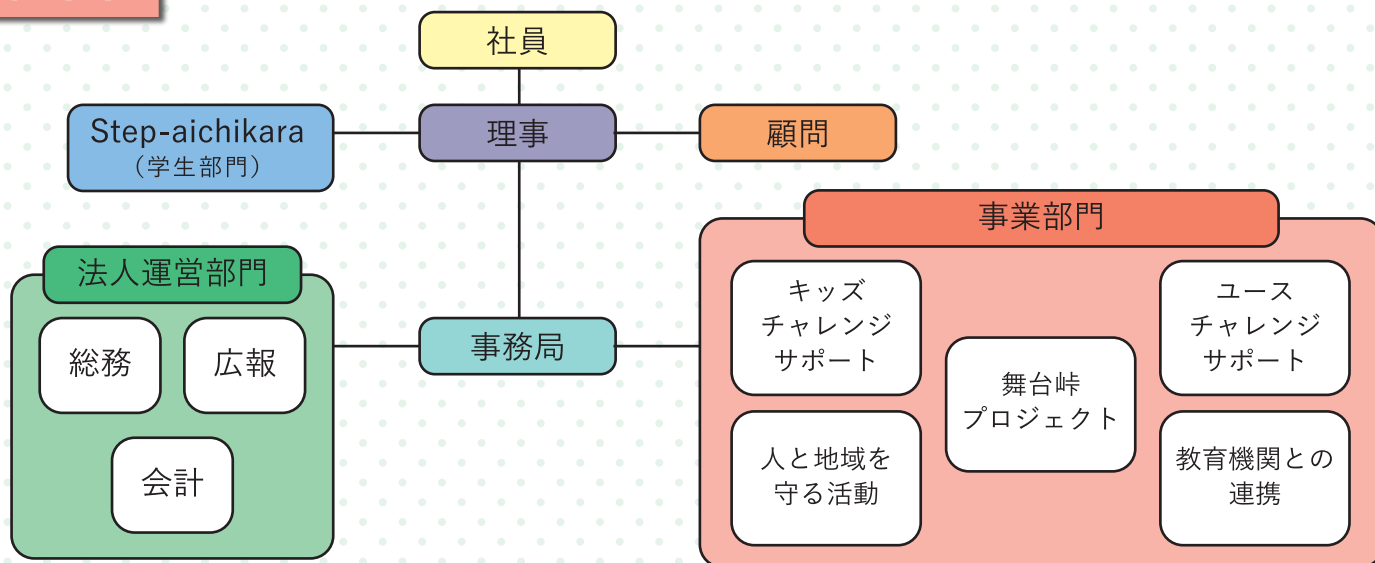
積立の部

積立の部

科 目	2018年度決算額
I 経常収益	
1. 受取寄付金	511,637
寄付金	257,278
寄付金(街頭募金)	254,359
2. 事業収益	434,900
経常収益計(A)	946,537
II 経常費用	
事業費	968,746
経常費用計(B)	968,746
特別会計差額(A)-(B)	△ 22,209

当期正味財産増減額	△ 22,209
前期繰越額	300,000
次期繰越額	277,791

組織図



役員

代表理事 石原 杏莉

副代表理事 御堂 大貴

専務理事 大島 巧
梶岡 優子
中村 豊
東松 広岳

常務理事 石動 愛恵
佐藤 匠

理事 篠田 一彦
石原 なる美
吉村 康範
福地 結実子
横倉 亜美
成瀬 智子
朝日 唯
新田 桃子

学生理事 市川 彩果

監事 若尾 僚彦

顧問 谷岡 郁子
中島 紀子
沼田 真由み

協力機関



株式会社 中島工務店



住所 〒460-0011
愛知県名古屋市中区大須 2 丁目 26-28
アイランド大須 1 階
MAIL info@ai-chikara.com
HP <https://www.step-aichikara.com>



発行日 2019 年 5 月 26 日
発行 一般社団法人 aichikara
責任者 石原 杏莉
事務局 石動 愛恵 志治 友規 山本 祐里
編集 大石 義貴 楠生 謙太
印刷



紙文 総合販売株式会社

資料提供



この報告書は、国立国会図書館東日本大震災アーカイブプロジェクトに協力しています。

